

オリブ12月

臨床心理学修士・HKJCF 牧師 漸波光正

「キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなた方は、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。」

ガラテヤ書5章1節

1、自由とは

自由とは何かと言うことは、哲学・政治学・経済学等の重要テーマですが、私は自由に生きると言う実践的な課題への答えを以下のように考えています。

- ①自分自身への受容：自分自身のコンプレックスからと欲望からの自由
- ②他者への赦し：「なぜあの人は」と言う裁き心から、「名の人あの人の人なのだから」と言う他者を認める心へ
- ③世界への寛容さ：世界は多様であり、一步一步前進すればよいと言う心

2、～からの解放

以上のような自由をどのように得ることができるでしょう。それには2つのアプローチがあると思います。それは

- ①学問的アプローチ：人文科学的方法です。英語では人文科学をリベラルアーツと呼びます。それは人間を縛る封建的な考え方から近代的学問特に人間に関する学問（哲学・歴史・文学等）が人間を解放し、自由にし、自立させると考えられたからです。
- ②宗教的アプローチ：しかし、教育だけでは人間には限界があるのです。近代的学問特に現代科学は人間に大きな可能性を与えましたが、同時に人間を丸ごと絶滅させる可能性をもたらしたのです。そこで現在、世界的な宗教ブームと言えませんが、そのことにも限界があると言うのはイスラエルの歴史や中世ヨーロッパの歴史を学べば明らかではないでしょうか？

つまり、教育でも宗教でも人間はそんなに変わるものではないのです。

3、～への解放

さて、1、のような実践的課題はどのようにして得られるのでしょうか？

聖書は、クリスマスに於けるイエスキリストの馬小屋での誕生と十字架の死と復活にその答えがあると言います。

ヨハネの福音書には「真理はあなた方を自由にする」と書かれていますが、この真理とは教育は宗教ではなくイエスキリストご自身の事を言っているのです。人間は神の一子、キリストの命がけの愛を信じ受け入れたときにコンプレックスと欲望、裁きと偏見から解放され、真の自由を体験できます。それは人間が創造の神様を信じるより、自分が神様になろうとした「原罪」から解放されることによった可能なのです。

どうか、クリスマスの季節に皆様がどんな環境にあらうとも真の自由を経験していただきたいと思います。